

RDA 東京大会における議論を踏まえた
研究データ共有の最新動向

研究データと オープンサイエンス フォーラム

日時：2016年3月17日(木)14時～17時45分

開催場所：国立国会図書館 東京本館 新館3階大会議室(主会場)

関西館 第一研修室(LIVE映像による聴講と質疑参加)

◆プログラム◆(敬称略)

- 1 14:00～14:05 >> **開会にあたって** 国立情報学研究所准教授 北本 朝展
- 2 14:05～14:20 >> **研究データとオープンサイエンスに関する基礎的知識**
国立情報学研究所准教授 北本 朝展
- 3 14:20～14:35 >> **(仮称) 研究データ利活用協議会について**
国立情報学研究所 教授 武田 英明
- 4 14:35～14:45 >> **研究データ同盟(RDA)とは何か？**
情報通信研究機構統合データシステム研究開発室長 村山 泰啓
- 5 14:45～16:45 >> **RDA 東京大会参加報告**
14:45～15:30 >> **PART1**
京都大学大学院理学研究科附属地磁気世界資料解析センター助教 能勢 正仁
東京大学 地球観測データ統融合連携研究機構 特任研究員 小野 雅史
総合地球環境学研究所准教授 近藤 康久
<15:30～15:45 >> 休憩 >
15:45～16:45 >> **PART2**
国立情報学研究所特任准教授 蔵川 圭
筑波大学大学院図書館情報メディア研究科 池内 有為
千葉大学附属図書館利用支援企画課 三角 太郎
国立国会図書館電子情報部電子情報流通課 福山 樹里
- 6 16:45～17:40 >> **フロアも交えたディスカッション**
司会：情報通信研究機構統合データシステム研究開発室長 村山 泰啓
- 7 17:40～17:45 >> **閉会にあたって** 国立国会図書館電子情報部長 田中 久徳

◆講師ご紹介◆

北本 朝展(国立情報学研究所准教授)

国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 准教授。

東京大学工学系研究科電子工学専攻修了。博士(工学)。大規模な実世界データから価値を創出する研究に興味を持ち、地球環境データや災害データから人文科学データまで、幅広い分野におけるデータ駆動型サイエンスに取り組む。文化庁メディア芸術祭アート部門審査委員会推薦作品など受賞。日本デジタル・ヒューマニティーズ学会理事。情報処理学会、電子情報通信学会等の各種委員も務める。

武田 英明(国立情報学研究所教授)

国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系教授。

総合研究大学院大学複合科学研究科情報学専攻。1991年東京大学工学系研究科修了。工学博士。ノルウェー工科大学、奈良先端科学技術大学院大学を経て、2006年より現職。2005-2008年東京大学客員教授、2006-2010年国立情報学研究所 学術コンテンツサービス研究開発センター センター長。

専門は Web 情報学、人工知能、設計学。ジャパンリンクセンター (JaLC) 共同運営委員会委員長、ORCID(Open Researcher and Contributor ID)の理事、NPO 法人リンク・オープン・データ・イニシアティブ理事長も務める。

村山 泰啓(情報通信研究機構統合データシステム研究開発室長)

国立研究開発法人情報通信研究機構統合データシステム研究開発室長(現職)、ICSU-WDS(World Data Ssystem)国際科学委員会 ex officio 委員、日本学術会議特任連携会員、国立極地研究所南極観測審議委員会委員、公益社団法人日本地球惑星科学連合理事。1999-2006年は北極域アラスカにおける上層大気観測研究の日米共同計画の日本側リーダーを務める。京都大学生存圏研究所客員教授、内閣府「国際動向を踏まえたオープンサイエンスの推進に関する検討会」委員、国立国会図書館科学技術情報整備審議会専門委員などを歴任。文部科学大臣表彰科学技術賞受賞(2007年)。京都大学工学博士(1993年)。

能勢 正仁(京都大学大学院理学研究科附属地磁気世界資料解析センター助教)

京都大学理学研究科で博士(理学)取得後、米国ジョンズホプキンス大学でポストドクトラルフェローとして3年間研究を行う。帰国後、現職。

専門は地球電磁気学、超高層物理学。主な研究テーマは、地磁気変動・脈動、内部磁気圏の高エネルギー粒子ダイナミクス、サブストームなど。

同時に、WorldData System のメンバーでもある地磁気世界データセンター・京都で、地磁気変動や地磁気指数データベースの管理・サービスを行っている。

小野 雅史(東京大学 地球観測データ統融合連携研究機構 特任研究員)

東京大学空間情報科学研究センター特任研究員。地理空間情報を用いたデータの相互利用に関する研究を行う。地理情報標準 ISO/TC211 の仕様検討、GEO(Group of Earth Observation)のオントロジー・タスクチーム、Belmont Forum E-infrastructure and Data Management の「データ共有」グループ等で活動。地球環境情報統融合プログラム(DIAS)ではISO/TC211に準拠したメタデータの設計、データの検索や分類に用いる語彙管理システムの開発を担当。

近藤 康久(総合地球環境学研究所准教授)

専門は考古学と地理情報学。人間文化研究機構総合地球環境学研究所研究高度化支援センターで、地球環境研究にかかる情報資源の蓄積と利活用にかかる戦略の策定を担当しており、その縁でオープンサイエンスの動向に関心を寄せている。

蔵川 圭(国立情報学研究所特任准教授)

国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課コンテンツシステム開発室特任准教授。博士(工学)。

設計工学、ソフトウェア開発関連の教育・研究を経たのち、NII において学術情報データベースと学術情報流通関連サービスの研究開発を 10 年ほど行う。学術情報流通まわりのコミュニティの関心の対象が、論文や本のカatalog主体から、本文主体へと変化し、ここ 5 年の間に研究データへと完全に変化してきているのにあわせ、3 年前にできた RDA の動きを観察している。

昨年 10 月に NII で行った SPARCJapan のイベントでは、企画メンバーとして関わり、オープンアクセスと研究データ共有をテーマに、今回の RDA への前哨戦となるような形で企画した。

池内 有為(筑波大学大学院図書館情報メディア研究科)

筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程在学中。

博士論文のテーマとして、研究データ共有の実態や学術情報流通への影響、インセンティブの分析に取り組んでいる。1997 年から 2005 年までフェリス女学院大学附属図書館に勤務した経験から、海外の大学図書館や関連機関への訪問調査も行っている。

「研究データ共有の現在：異分野データの統合とデータ引用、日本のプレゼンス」『情報管理』(2015)

「大学図書館による研究データ管理の最前線：研究力を強化するエディンバラ大学の事例」『現代の図書館』(2014)

「研究データ共有時代における図書館の新たな役割：研究データマネジメントとデータキュレーション」『カレントアウェアネス』(2014)

三角 太郎(千葉大学附属図書館利用支援企画課)

千葉大学附属図書館利用支援企画課副課長。図書館員。

宇部工業高等専門学校、山口大学、山形大学を経て、2014 年 4 月より現職。

現在、機関リポジトリ推進委員会協力員、NACSIS-CAT/ILL 検討作業部会委員、論文公表実態調査チーム委員を務める。

福山 樹里(国立国会図書館電子情報部電子情報流通課)

2010 年、国立国会図書館入館。主題情報部(現、利用者サービス部)科学技術・経済課 科学技術係を経て、2013 年 4 月から電子情報部 電子情報流通課 標準化推進係にて Linked Open Data、メタデータ、データ利活用の推進を担当。ジャパンリンクセンター(JaLC)普及分科会委員。